

	鳥取大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学部（第1年次:450） 大学院工学研究科（M:153 D:21）
沿革	昭和24（1949）年 新制鳥取大学創立 昭和40（1965）年 工学部設置 昭和49（1974）年 大学院工学研究科設置 平成6（1994）年 大学院工学研究科博士課程設置
設置目的等	<p>昭和40年に、我が国の経済発展のため、工業力強化を図ることは喫緊の課題であり、産業振興を支える研究開発者及び技術革新に柔軟に対応できる高度工業技術者の養成が急務になり、鳥取県知事ら地元の強い要望もあり、工学部が設置された。</p> <p>昭和49年に、工学分野の多様化するニーズに対応できる知識・技術を教授し、研究活動を通じた高度な教育研究を行うとともに、当該分野における萌芽的研究や開発研究を進めることができる高度専門職業人、又は研究者を養成することを目的に、工学研究科（博士前期課程）が設置された。</p> <p>平成6年に、専門的及び学際的立場から工学分野の高度で先進的な教育研究を行うとともに、豊かな学識を有し、自立した研究活動を行う能力、社会の要請に対応できる応用力、創造力を有する技術者、又は研究者を養成することを目的に、工学研究科博士後期課程が設置された。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>鳥取大学においては、地域との強い連携をもって実学を展開するとともに、教育研究理念の「知と実践の融合」のもと、社会に適用できる知力・実践力・気力・体力・コミュニケーション力といった「人間力」の豊かな人材の養成を通じて、約20,000人の工学系人材を輩出してきており、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <p>○ 伝統的工学と他の学問分野の成果を課題解決のため融合利用する「総合学」としての工学教育を目指すという理念にもとづく教育研究を展開し、情報通信や輸送用機械の製造などのハード・ソフトのものづくりに必要な能力を有する高度な技術者の育成機能を充実する。博士課程においては、広範な学力、高度な専門分野の知識</p>

と独創性を備え、地域の課題を解決できる人材育成の役割を果たす。

- 鳥取県をはじめとする周辺地域の工学教育の機会均等に寄与する。
- 「アウェアネスを持った学生づくり教育－フィールドに学ぶ動機づけ実践プログラム」などの特色ある教育や早期から国際的通用性のある認定プログラムを推進してきた経験と実績を生かし、グローバルに活躍できる工学系人材を育成する学部・大学院教育を目指して、教育内容や組織の見直し等不断の改善・充実を図る。
- 持続性のある生存環境社会の構築を目指し、「過疎社会問題、地域防災、暮らしを支える情報基盤に関わる地域安全工学研究」、「低環境負荷技術開発に関わるグリーン・ケミストリー研究」、「エネルギー生産技術開発に関わるバイオテクノロジー研究」を推進する。また、地域の自治体や産業界との連携に基づく「液晶開発、微小電気機械素子に関する研究」をはじめ、医工連携による「シャペロン医薬研究、ニューロサイエンス研究、画像診断研究」など、工学諸分野の融合型研究を展開する。
- 鳥取県内を中心とした中小企業との萌芽的共同研究及び研究の応用・実用化を目指した技術説明会や相談会の実施、県内自治体の各種委員会への参画など、地域へ貢献してきた実績を生かし、地域産業の振興と地域の知識社会化の推進に寄与する。
- 大学院（博士課程）への社会人受け入れや地域の技術者向け講習会等を通じ、社会人の学び直しに寄与する。
- 教員免許の教科として「工業」だけでなく「数学」「理科」「情報」「技術」の取得カリキュラムを継続し、開放制教員養成に資する。また、初等中等教育での理数科教育を支援し、理工系人材の育成に資する。